

2014年10月1日

〇〇 〇〇 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

立野ダム問題についての公開質問状

私どもは、立野ダム問題解決に向け活動を展開しております住民団体です。

立野ダムは阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野火口瀬に国土交通省が計画した、高さ90mの洪水調節専用の穴あきダムです。通常はダム下部に設けられた3つの穴（高さ5m×幅5m）から通水し、水はためないとされます。

1983年に事業が開始され、取り付け道路などの工事は進みましたが、ダム本体工事には着手されていません。立野ダムの総事業費は、当初予算の2倍以上の917億円に膨れ上がり、熊本県の負担額は917億円の3割、275億円（県民一人あたり約1万5000円）にもなります。

立野ダムは洪水調節だけを目的としたダムですが、洪水時にはダム下部に開いた3つの穴（高さ5m×幅5m）が流木などでふさがり、洪水調節不能になるのは明らかです。流域の安全を守るどころか、危険をもたらすダム計画です。

カルデラの切れ目にダムをつくるのは、専門家でなくとも危険を感じます。立野ダム予定地右岸は阿蘇火山から流下してきた立野溶岩で、一帯には多くの断層が集中しています。阿蘇は日本を代表する活火山です。先日、御嶽山が噴火したように、阿蘇の火山活動が急に活発になることも十分に考えられます。ダム完成後に火山活動等により地盤が動けば、ダム本体と周りの地盤の間にすき間が生じ、最悪の場合、ダムの崩壊へとつながります。

先日、阿蘇は世界ジオパークに認定されました。立野峡谷は重要なジオサイトの1つとなっています。また、立野ダム建設予定地は現状変更行為が許されない阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区にあり、国の天然記念物である北向谷原始林の一部も水没により破壊されます。熊本市からわずか30分あまりで訪れることのできる阿蘇の玄関口の、貴重な自然と景観が失われようとしているのです。このまま立野ダムが建設されると、世界ジオパークの認定までもが取り消されることも心配されます。

洪水時の白川の水は多くの火山灰を含みます。白川にダムを造っても土砂や岩石、火山灰等で埋まってしまうことは明らかです。白川流域の安全を守るには、立野ダムを建設するのではなく、河川改修を進めるべきです。

国土交通省が2012年9月に白川流域3か所で開催した公聴会では、発言した30名の住民全員が立野ダムの建設に反対意見を述べました。それにもかかわらず、国土交通省は住民が要望する立野ダムの説明会さえ開こうとはせず、住民の質問に対しても「ホームページを見てください」との対応に終始しています。

熊本市長を会長とする「白川改修・立野ダム建設促進期成会」（白川流域4市町村で構成）は、住民の声に耳を傾けようともせず、国土交通省に同調して、国に立野ダム建設事業の推進を毎年要望しています。

そこで、立野ダム問題に関し、11月に行われる熊本市長選挙に立候補を表明された皆様方に、下記2点についてご質問致します。

記

1. 立野ダムが熊本市民に与える治水上の危険性、ダムによる泥濁水がもたらす景観及び農業利水への悪影響、生態系や観光への悪影響などについて、どのようにお考えですか。
2. 立野ダム建設事業に関して、熊本市民との対話を今後されるおつもりがありますか。

候補者の皆様に公平となるよう、ご回答は設問ごとに400字以内にまとめていただければ幸いです。お手数ですが、10月8日必着で、FAXまたは郵送にてご回答頂ければ幸いです。頂きましたご回答は、回答の有無を含めて各報道機関へ配信し、インターネット等でも公開させていただきますので、あらかじめご了承下さい。ご協力のほど、よろしくお願い致します。

【ご回答送付先・お問い合わせ】


〒860-0073 熊本市西区島崎4丁目5-13

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康

電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

平成26年10月7日

立野ダムによらない自然と生活を守る会
代表 中島 康 様

石原 やすなり 

立野ダム問題についての公開質問状について(回答)

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、先般、書面によりご質問のことについて、下記のとおり回答いたします。
今後とも、ご支援よろしくお願い申し上げます。

記

1. 設問1への回答

この問題は、白川の洪水に対して、「白川とともに暮らしてきた熊本市民の安全」を守ることと、流域および下流の水質・環境を守る視点から解決してゆくべき問題だと思えます。よって、そのためにはこの間、熊本市内で進められたような護岸工事など治水対策を含めた総合的視点から、市民の意見を聞きながら判断をしてゆきます。

2. 設問2への回答

無論、対話は今後も続けるべきと考えます。立野ダムの建設は、国が単独に進めている事業ではなく、熊本市としてもこれまで推進の立場で動いてきた事業です。しかし、基本は白川から市民の安全を守るための施策であるわけですから、行政と市民の意見交換が途絶えるなどありえません。地球温暖化により、降雨の形態も違ってきています。治水施設のあり方もこの計画が始まった時代とは違ってきています。そういう意味からも、今の計画で安全が万全とも言い切れません。また、TPPの影響で、阿蘇のカルデラにお米を作る人が少なくなるようなことがあれば、洪水時の水田による貯留機能がどんどん無くなります。田んぼからの地下浸透が無くなれば、洪水も増え、熊本市への地下水供給も減ります。つまり、熊本市の治水、利水は阿蘇のカルデラと一体の問題であり、熊本市民、阿蘇の人々を交えて多くの人たちの合意形成が必要と考えます。私は阿蘇を守ることが熊本を守ることと熊本市民にも訴えたいと思います。

2014年10月16日

立野ダムによらない自然と生活を守る会

代表 中島 康様

大西 一史

立野ダム問題についての公開質問について（回答）

貴団体から頂きました公開質問に対し、別紙の通り回答させていただきます。なお、回答が遅れましたことにつきましてお詫び申し上げます。

また、本回答につきましては、熊本市選出の熊本県議会議員としての経験や知識等を踏まえた現時点での私の考え方や思いであり、今後、熊本市政について様々な角度から精査・検討する中で、修正等もあり得ることをあらかじめお断り申し上げます。

回答者 大西 一史

- 1 立野ダムが熊本市民に与える治水の危険性、ダムによる泥濁水がもたらす景観及び農業利水への悪影響、生態系や観光への悪影響についてどう考えるか。

(回答)

私は、災害などから市民の生命・財産を守ることは、市政の最も基本的かつ重要な責務であると考えており、特に、昭和28年の6.26大水害から、一昨年の九州北部大水害まで、幾度と無く氾濫し大きな被害を出している白川の治水は防災対策上、最重要課題の1つと認識している。

この白川の治水対策については、これまで、関係自治体からなる検討会議などにおいて、遊水地、河道掘削、水田等の活用など、様々な方策の組み合わせを、事業費、工期、環境影響、景観など多方面から総合的に検討し、立野ダムを含む現在の河川整備計画の優位性が高いと判断されていることから、現在、熊本市では関係市町村とともに国に立野ダム建設の早期着工を働きかけており、基本的にはこの姿勢は継続すべきであると考えている。

もちろん、事業推進にあわせて、国に対し、世界農業遺産である阿蘇の農業システムや豊かな景観、自然環境との共生についても強く求めていく必要があると考えている。

- 2 立野ダム建設事業に関し、熊本市民との対話を今後されるつもりがあるか。

(回答)

立野ダム建設事業は、国の直轄事業であることから、国の責任において対話がなされるべきものと考えている。

ただし、事業の進捗状況に合わせ、地域住民に対する説明や情報提供等を行っていただくよう、国に対し働きかけていく必要性があると感じている。

以上

【宛先】立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康 行
 〒860-0073 熊本市西区島崎4丁目5-13 FAX番号 096-354-2966

○公開質問状・ご回答用紙

※候補者の皆様方に公平となるよう、設問ごとに400字以内にまとめていただければ幸いです。
 ※本紙に準じた書式で、パソコンなどで作成されてもかまいません。

ご回答者氏名 (下川 貴)

1. 立野ダムが熊本市民に与える治水上の危険性、ダムによる泥濁水がもたらす景観及び農業利水への悪影響、生態系や観光への悪影響などについて、どのようにお考えですか。

まず大前提として、自治体は住民の生命と財産を守ることが第一義と考えますので、洪水のリスクを減らす対策は必要と思います。しかしその中で、対策をとったことによるリスクはアセスメントされ、合わせて対策しておくことも当然と考えます。

よって、現在に配されているリスクが真正にアセスメントされ、対策がきちんととられながら進むことに加え、大多数の方の納得が得られるように国にしていいただくことが求められているように感じています。

2. 立野ダム建設事業に関して、熊本市民との対話を今後されるおつもりがありますか。

対話の要望があれば、可能な限り誠実に対応したいと思います。

※この質問状は、私の手元には10月14日夜に到着したため、回答が遅くなりましたことを申し添えます。